データは　mirai-bousai.netからダウンロードできます。

新元号（　　　）年度

BB自治会 地区防災計画（素案）

〜各自治会等が、「学区防災計画に」準拠・参画して作成

　　　　　「学区防災計画」はこれを集約・総括する構想です〜

1 計画の対象地区の範囲

△△市△△町（住所範囲）　　　または、　〇〇マンション

2 基本的な考え方

1. 基本方針(目的)

本計画は、AA小学校区を構成する一地区である、本自治会が、AA小学区防災計画に準拠し、また、参画する中で構築する防災計画として、住民が自ら考え、行動するための共通理解である。

1. 活動目標

災害から、住民の生命と財産を守るために自助、共助の精神により、すべての住民が自ら考え、協力して、予防と初期対応による減災、早期復旧復興に向けて最善を尽くせるようにする。

1. 長期的な活動計画

ア 本計画は、計画、実践、評価、次年度改善案と、毎年見直しを図り、改善を重ねるようにする。

イ 組織の改善、資機材の整備は三年の中期での整備を目指して計画的に取り組む。

3 地区の特性と災害に応じた避難場所

（１）自然特性

（２）社会特性

（３）ハザードマップ・防災マップ等

（４）災害履歴　地層・歴史資料から確認または推定できるもの（過去１０万年程度）

（５）今後予測される災害リスク

災害履歴と予測される災害リスク一覧　　（学区防災計画に提出・集約）

◎… 大いにあり（最大計画）　○…あり　　△…推定・予想される　？…よくわかない

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 災害種  地区 | 地震 | | | | | | | | 火山 | | | 風水害 | | | | | 工場等 | |
| 地震動震　度６弱以上 | 軟弱地盤震度増幅被害 | ブロック塀家具転倒 | 火災延焼 | 液状化 | 地震による急傾斜地崩壊 | 津波 | 火山灰降灰 | | 火砕流 | 火山泥流 | 洪水・高潮 | 堤防決壊 | 土石流 | 土砂崩れ | 竜巻 | 工場・倉庫等火災爆発 | 原子炉災害 |
| １災害履歴 |  |  |  |  |  |  |  |  | |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| ２災害リスク |  |  |  |  |  |  |  |  | |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

（６）災害に対応した避難場所と自治会災害対策本部（学区防災計画に提出・集約）

　　行政の防災マップ等で要援護者の移送も視野に現実的に考える。疑問は、行政と協議したり、行政を通して有識者の監修を受けて考えられるようにする。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| ブロッック | 地区班構成 | いっとき避難場所・地区拠点 | 広域避難場所  （地震・火事） | 崖崩れ・土石流・地滑り洪水・浸水（緊急避難所） | 地域防災拠点  （指定避難所） |
| １地区 | １〜３班 | H 公園 | 県立O公園一帯 |  |  |
| ２地区 | ４〜５班 | I 神社 |  |  |
| ３地区 | ６〜８班 | K ゴミ集積所 | C 団地一帯 |  |  |
| ４地区 | C団地 | 中央広場 | 団地内 |  | 2階以上自宅避難 |
| ５地区 | 〇〇マンション | 屋内安全確保 | 籠城作戦 |  |
| BB自治会災害対策本部 | | BB自治会会館 | | | |

4 防災活動の内容

1. 防災活動の体制(班編成)

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 班名 | 担当 | 任務（例） |
| 本部長・副本部長 |  | 全体調整  他機関との連絡調整　　被害・避難状況把握 |
| 情報班 |  | 状況活動・報告活動  安否確認　住民への情報伝達 |
| 救出・救護班 |  | 倒壊等からの救出活動  応急手当て病院等搬送  要援護者健康支援 |
| 初期消火班 |  | 初期消火活動  出火監視（二日は危険）　　防犯活動 |
| 生活班 |  | 水・食料等の配分 防災拠点からの物資確保  要援護者への物資支援 |
| 地区班 |  | 安否確認・要援護者支援をする範囲 |
| 各班支援隊 | 各班を一年以上経験した元班員 | 訓練時、災害時、各班支援隊として班の活動を支援するものとする。 |

1. 平常時の活動

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 月 | 自治会災害対策活動 | 防災班活動 | 学区防災連携活動 |
| ４月 | 本年度防災活動計画確認 | 防災行動マニュアル確認 |  |
| ５月 |  | 班ごと研究（課題検討） | 学防災会議参加（役員） |
| 6月 |  | 防災備品点検 |  |
| 7月 | 花火の夕べ | １１月防災訓練計画 |  |
| 8月 | なし | なし |  |
| 9月 |  | １１月防災訓練計画決定 |  |
| 10月 | １１月防災訓練広報  各階で声がけ、防災作成、 | 自治会防災訓練準備  予備訓練 | 防災訓練準備 |
| 11月 | １１月１１日　防災訓練準備  １１月１８日（日）学区防災組織連動自治会防災訓練 | | 学区総合防災訓練 |
| 12月 | 自治会忘年会 | |  |
| 1月 | 新年度総会議案書作成 | 総会提案防災マニュアル | 学区図上演習参加 |
| 2月 | 総会 | 本年度反省 | 学防災会議参加（役員） |
| 3月 | 次年度取り組み計画 | |  |

（３）本自治会の防災組織始動規定及び災害前の活動

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 災害状況 | 市・学校 | 学区防災組織 | 地域防災拠点 | 本自治会自主防災組織 |
| 大地震  横浜市域  震度5強以上加速 | 市・区災害対策本部開設  学校災害対策本部開設 | 学区防災対策本部開設  地域防災拠点開設 | | 災害対策本部開設  活動開始 |
| 南海トラフ巨大地震情報 | 準備体制  市の判断に応じ、中学校区で対応 | 災害への備え推進  本部長判断で「学区災害対策本部」開設 | | 住民に警戒を呼びかけ。  高所荷物下ろし・家具固定呼びかけ。  要援護者宅を手伝う。 |
| 風水害特別警報等 | 区防災計画に応じた行動  学校休校 | 避難場所・避難ルート確認  「タイムライン」に応じた早めの行動推進。 | | 水害・土砂災害危険地区は、災害作本部開設早めの行動 |
| 火山降灰  （予行お） | 状況に応じた対応 | 火山降灰に対応した行動  降灰による停電、断水への備え  火山降灰除去作業 | | 要所への目張り等備え。  スコップ、竹箒、土嚢等降灰対策用具整備 |

（４）災害時の対応計画（思考訓練項目）

　「学区防災計画」を参照して、地域防災拠点、行政の動き及び「対応限界」を理解して、連携しながら、自助・共助で取り組む対策を考える。「学区防災計画」との不整合や疑問があれば、明らかにして学区防災計画でフィードバックする。

思考訓練シート（この項目で各班思考訓練。共通理解すれば、「マニュアル」となる）

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 種 | 番 | 災害状況 | 対応 | 資機材・人員 |
| 情報班 | A | 1 | 安否確認の方法 |  |  |
| A | 2 | 安否確認情報の総務班集約と伝達 |  |  |
| A | 3 | 安否・災害情報の住民への伝達 |  |  |
| A | 4 | 各世帯の安否確認済みマーク |  |  |
| A | 5 | 防災拠点・在宅避難・疎開・特別避難場所への移動状況の把握 |  |  |
| 初期消火班 | F | 1 | 近隣の家で、天井に達していないぼやが発生し、煙が出ている。 |  |  |
| F | 2 | 近隣の家で、天井に達した火が窓から噴出している。 |  |  |
| F | 3 | 家一軒が全焼状態で、隣家に延焼しようとしている。 |  |  |
| F | 4 | 数件が延焼状態で、拡大している。火の粉が降ってくる。 |  |  |
| F | 5 | 隣接地区から火災延焼が接近している。火の粉が降っている。 |  |  |
| F | 6 | 他地区から火災延焼が接近している。火の粉が降っている。 |  |  |
| 救出救護班 | C | 1 | 家が傾き、ドガが開かず、出られない世帯がある。 |  |  |
| C | 2 | 割れたガラスや食器で怪我をした人が多数出た。軽傷 |  |  |
| C | 3 | 家具が転倒し、下敷きになっている人がいる。中傷。 |  |  |
| C | 4 | ブロック塀の下敷きになった人がいる。重症。 |  |  |
| C | 5 | 旧耐震の家屋が層破壊し、１階が潰れている。生存は確かめられた。 |  |  |
| C | 6 | 全壊した家に生存者あり。屋根の下から火災が発生した。 |  |  |
| C | 7 | 全壊した家から救出作業中、近隣で火災が発生。延焼が迫ってきた。 |  |  |
| C | 8 | 救出しようとしている人が二時間以上挟まれており、震災時クラッシュ症候群が疑われる。 |  |  |
| 生活班ン | L | 1 | 夜間に震度６強。町中に被害。停電！ |  |  |
| L | 2 | 断水二週間。給水は？ |  |  |
| L | 3 | 断水二週間。各家庭のトイレは？ |  |  |
| L | 4 | ガスがストップ。調理、風呂は？ |  |  |
| 地区班 | S | 1 | 火災延焼接近　要援護者の避難は？ |  |  |
| S | 2 | 要援護者の家が家具転倒、散乱で住めそうもない状況となった。 |  |  |
| S | 3 | 要援護者の家が倒壊、焼失。 |  |  |
| S | 4 | 要援護者の家が堅牢で生活できる状態。しかし、物資搬入、水、トイレ等一人ででできない。 |  |  |

（４）復旧活動　生活

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 担当 | トイレ対策 | 水 | 瓦礫除去・家屋整理 |
| 本自治会  住民各世帯 | トイレ・下水情報収集で伝達  トイレパック（備蓄しておいた）の配布？  自治会で使用できるトイレの共有。  トイレゴミ出しとうルール確立。  要援護者のトイレ支援。 | 地区にある緊急給水栓からの給水。  要援護者への給水体制確立 | 協力して、家具起こし  地区内ボランティアの呼びかけ |
| 地域防災拠点 | トイレ・ルール確立  下水損傷なければ季節トイレ  水不通なら、プール水各自持参  要援護者支援  仮設トイレ | 学校受水槽水の確保  塩素濃度測定で塩素あれば飲料可。なければ生活用水に。  備蓄水の分配  緊急給水栓・給水タンクの運用 | ボランティアセンター開設  要支援世帯トランティアのマッチング |
| 学校 | 防災拠点支援 | 給水塔秩序支援 | 余力あれば地域支援活動  中学校は中学生ボランティア検討 |
| 事業所等 | 事業所の設備等が使えれば協力 | 施設を活用した支援 | 重機等を活用した地域貢献 |
| 行政 | 仮設トイレ等の配置推進 | 水道局・資源循環局による活動。 | 災害ごみ処理の体制確立 |
| 学区のボランティア |  | 要援護者への水運搬等 | 瓦礫除去作業 |
| 外部からのボランティア |  | 要援護者への水運搬等 | 瓦礫除去作業 |

（５）食料・支援物資の配給

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 担当 | 震災後３日程度 | 震災後１０日以内 | 震災後数週間 |
| 本自治会  住民各世帯 | 家にあるものと、備蓄水、カセットコンロで調理して生活  要援護者への食事支援体制確立 | 循環備蓄のある世帯は。防災拠点に頼らない生活をめざす。  商店が開店すれば、正常化。 | 不足する支援物資を必要に応じて受け取れる体制構築。 |
| 地域防災拠点 | 炊飯設備を使った炊き出し  学区防災会議を開設し、備蓄庫食糧の分配体制確立 | 各自治会への人数に応じた分配体制確立  運搬車が各自治会に直接配給する体制をめざす。 | ボアランティアによる  食糧分配 |
| 学校 | 防災拠点支援 | 物資管理支援 | 余力あれば地域支援活動  中学校は中学生ボランティア検討 |
| 事業所等 | 事業所の設備等が使えれば協力 | 施設を活用した支援 | 施設等を活用した地域貢献 |
| 行政 | 必要数の中長期的把握 | 需要に対する供給の双方向情報交換確立。 | 災害ごみ処理の体制確立 |
| 学区のボランティア |  | 要援護者への水運搬等 | 瓦礫除去作業 |
| 外部からのボランティア |  | 要援護者への水運搬等 | 瓦礫除去作業 |

第９章　実践と検証

　１　防災訓練の実施・検証・見直し

　目的と観点をもって年間訓練計画を確立し、検証して次年度に生かすようにする。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 訓練内容 | 内容 | 評価の観点 |
| 防災マニュアルの検討について | 自治会地域の地形や建造物に潜む災害リスクを知り、対応を参加者が主体的に考える | 参加者が地域の災害リスク自ら気づき、対応を考えることができたか。 |
| 自治会初期対応訓練 | 安否確認、情報伝達、要援護者支援、災害時に発生する火災、倒壊、負傷者に対応する技能を身につける。 | 安否確認、情報伝達、初期消火、救出、救護などの技能を身につけ、組織的に動き減災に結びつけることができたか。 |

２　防災意識の普及啓発

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 取組項目 | 取組内容 | 備考 |
| 学区総合防災訓練  （地域一斉初期対応訓練） | 児童保護者が授業として参加するので、年度の重点を決めて、自治会の一員として考えたり、体験したりできるようにする。 | 本自治会の現実的な対応を想定して、体験型でできるようにする。 |
| 自治会独自防災研修 | 防災・地域の有識者を招いて、知識をみにつけたり、災害リスクを検証したり、参加型ワークショップをした入りする。 |  |
| 防災たより | 定期的に防災知識を住民として共有できるようする。 | 学区防災マニュアルに準拠し、より現実的に考えて教育普及をする。 |

３　計画の見直し　　本計画は、年度内に、「学区防災計画」と関連して見直しをするものとする。学区防災計画と不整合や、疑問点があれば、積極的にアンケートに記入し、「学区防災会議」に意見具申する。

参考・引用文献　地区防災計画ガイドライン

~地域防災力の向上と地域コミュニティの活性化に向けて〜平成 26 年3月

横浜市防災計画

横浜市学校防災計画